

## 巻頭特集 INTERVIEW

### 米国研修指導医招聘プログラム紹介 Dr.Kaunitzインタビュー



#### Interview 米国研修指導医招聘プログラム

## 医療における日米両国の交流を深めつつ、 研修医のスキルアップに貢献したい。

国立病院機構では専修医制度の一環として、海外留学プログラムを実施しています。さらに平成22年度からは、海外の講師に全国の機構病院で研修医を直接、指導してもらいたいとの要望を受け、海外留学プログラムの研修先である退役軍人病院医療センター(VA)から講師を招聘することになりました。VAMCの研修担当者でもあり、昨年度から各機構病院を巡回して研修医に対する指導をなさっている、Jonathan D. Kaunitz医師にお話をうかがいました。

—国立病院機構では2年前から海外の講演者を招聘して病院を訪問するプログラムを始めました。この取り組みについてどう思われますか。

国立病院機構とVAが提携する研修医プログラムに参加できて大変光栄に思います。日本からのオファーを受け、プログラムのお手伝いをする機会を与えられたことに心から感謝します。海外プログラムに従事した今までの経験が活かれますし、非常にやりがいを感じています。

私たちの病院で受け入れている日本からの研修医はとても優秀です。研修期間も充分長いので多くを学べることでしょう。理想的なのは、英語

が堪能な研修医がVAの中で強い分野を選択してしっかり学び、吸収すること。そうすれば本当に大きな成果が得られると思います。

—今回のツアーに先だって、今年8月にも各病院でのプログラムを実施されていますね。実際にはどんな講義なのでしょう。

病院訪問をスタートして以来、研修医のみなさんにとって役に立ち、より実践的な経験をしていただくためにいろいろと模索し、やり方を少しずつ変えてきました。最初は英語での講義を中心にしたセミナー形式でしたが、言葉やその他の問題でこちらの意図がうまく伝わらない場合もありました。



Jonathan・D・Kaunitz

## PROFILE

UCLA (カリフォルニア大学ロサンゼルス校) 医学部教授。  
VAMC (Veterans Administration: 退役軍人病院) 医療センター消化器部門副部長。



Dr.Kaunitz デザイン

現在は研修医のみなさんに症例をプレゼンしていただき、質疑応答やアドバイスを加えていくケーススタディ形式を増やしています。このやり方のほうが効果的ですね。

—日本とアメリカの病院を比較した場合の違いについて教えていただけますか。

まず気づいた点は研修医への指示です。日本のシステムについても少し勉強しましたが、病院で働きはじめる日本の研修医は、アメリカの医大3年生と同等のレベルでしょう。なぜなら日本の大学のカリキュラムには病院での経験があまり組み込まれていないからです。教室内での講義や本での勉強、いわゆる座学が多くて、臨床経験を積むチャンスがほとんどありません。

つまり、日本の医大生は病院経験が少ない状態で卒業します。研修医にその程度の経験しかないことを考えると、指導医はもう少し厳密で詳しい指示をすべきだと思います。アメリカの場合、医大3年生の時に研修医の指導を受けて実習を始め、研修医は主治医の指導のもと、アドバイスを受けながら経験を積んでいきます。

日本ではそういう指導体制がありません。研修医であるにもかかわらず、経験は医大生並みというのが現実です。大きな変化が必要かもしれませんが、日本でもアメリカのように医大生のうちから病院実習を始めればよいのではと思います。医大でのカリキュラムをあと1年延長することも検討すべきではないでしょうか。

そうすれば病院で患者さんを診た経験が少しはある状態で卒業し、研修医として勤務できます。また、先輩研修医が後輩を指導する機会も大切です。それを実現するためには研修期間を2年からさらに4年に延ばす必要がありますね。

—現在日本で実施されている医療サポートプログラム、特に研修医に対する教育プログラムについてどう思われますか。

私としては研修医プログラムの一環として、アメリカの病院に研修医を派遣し、経験を積ませたいぐらいの気持ちがあります。日本でも現在の医療システムを改善したいという動きがあり、変革が必要だと考える人が存在するでしょう。こういうプログラムに投資すること自体、変化を求めている明確な証拠ですからね。今後、システムを改良する可能性は高いと思います。

—このプログラムに対して、また、先生ご自身の使命についてはどうお考えですか。

使命ですか。今まであまり考えたことがなかったのですが、とてもいい質問ですね。まず、この仕事の目的は、おたがいに利益を得るために、日米双方の医療機関が交流し、スタッフ同士の情報交換やコミュニケーションの機会を増やすことにあります。

日本の医師は我々の医療システム、治療やケアの方法を学ぶことで、数多くのメリットがあるはずです。もちろん、日本の医療にも優れた点がたくさんありますから、我々の知識も向上するでしょう。日本の治療は細部を重視し、効果的におこなわれますし、スタッフは勤勉です。これは医療にとって非常に大事な要素です。

—先生の指導から研修医や若手医師に何を学んで欲しいですか。

研修医にもっとも学んで欲しいのは、私たちの患者さんに対するケアの仕方、そして一人前の医師になるまでの教育方法です。我々の指導は1人が教えるのではなく、数名で情報を集めて、それをまとめていくスタイルです。マンツーマンの指導より、チームとして情報を共有し、意見交換をしながらおたがいが関わり合う、相互作用的で実践的な方法をとっています。

違うシステムに慣れてきた方々にとって急激な変化が難しいのはよく分かっていますし、実際そうはならないでしょう。私の役割は「我々はこのようにやっています。そうすると効果があります。繰り返せば、さらに成果につながります」とお伝えし、提示していくことです。

—研修医と若手医師に対してのメッセージを。

医学は長い歴史を持つ学問です。医師は偉大な職業であると同時に、人の生命と直接関わる仕事であることを真摯に受け止めなければなりません。研修医のみなさんにわかって欲しいのは、一人前の医師になるには一生懸命働き、真剣に考え、最新知識を常に取り入れる姿勢が必要なこと、そして、患者さんを家族の一員として扱って欲しいということです。患者さんは病気であり、ストレスにさらされている状態だと理解しなければなりません。技術だけで対応するのではなく、思いやりの心を持つべきです。それもまた医師として大切な部分でしょう。その一方で、患者さんに個



人的な感情を持ちすぎると、治療の効果が少なくなってしまう。

しかし、医師は大変やりがいのある職業です。個人的な意見ですが、私はこの職業にとても満足していて他の仕事は考えられません。みなさんにベストを尽くしてほしい。それが我々の治療システムを向上させる原動力だと思います。

—日本でお気に入りの場所と食べ物があれば、教えていただけますか。

多すぎてお答えするのがとても難しい質問です。基本的には京都など、歴史があり、古い文化と習慣が残っている土地に惹かれますね。奈良にある古い木造建築が特に好きです。でも、日本文化のさまざまな面に興味を感じています。

日本食はいろいろ口にしますが、何が好きかと

いえば、基本的にまったく違う2種類になりますね。1つは山や田舎で収穫された野菜を使った素朴な料理。手作りの味わいがあり、シンプルですが、上質です。その土地で育った素材だから新鮮でとてもおいしい。もう1つは美しく可愛らしく、目で見て楽しめる会席料理。中でも京都のものが好きですね。

—休日とはどのように過ごされていますか。ご家族と一緒のことが多いのでしょうか。

ええ。仕事でも旅行はたくさんしますが、私たち家族はいろいろな場所を訪れるのが好きですね。夏は妻といっしょにカナディアン・ロッキーに行き、とても良い時間を過ごしました。オンとオフをうまく切り替えて、リラックスすることも医師には大切なひとときだと思います。



# 米国研修指導医招聘プログラムに参加して

消化器内科の症例について発表

**海外講師ならではの  
ロジカルな視点に  
刺激を受けました**



京都医療センター 研修医  
山下侑吾

英語でのプレゼンテーションはほぼ初めての経験でした。ヒアリングはともかく、自分の考えを発表し、伝えることは難しいものですね。

ただ、英語という言語自体、非常にロジカルなので、Dr. Kaunitz からのアドバイスやコメントも論理的な指摘が多く、大変勉強になりました。日本人はシャイで研修先でもあまり発言しないという指摘があり、英語でなにかしゃべってみるという積極的な心構えがまず大事だと。

国内での異動だけでは英語でプレゼンするチャンスは減多にないので、有意義なプログラムだと思います。今回は約 1 カ月前に準備を始め、実際に診た症例からテーマを選んだのですが、入院後の経過などを把握しきれいていませんでした。次の機会があれば入念に準備をして、よりトータルな内容にしたいですね。英語も好きなので、もっと勉強していきたいと考えています。

糖尿病が原因の胃腸障害について発表

**主訴だけでなく、  
今後の治療に役立つ  
視点を持てと教わりました**



京都医療センター 研修医  
諏訪達也

今回は糖尿病自律神経障害の中で、特に消化器に症状が出てきたタイプの胃腸障害について発表しました。48歳と患者としてはかなり若い方で、僕は主訴に関連することを中心に説明したのですが、Dr. Kaunitz から「大切なのは今後の治療だ」と。これまで同じ症状があったのか、血圧や他の部位の異常もきつとあったはずだがと指摘を受けました。すでに退院されてしまいましたが、外来でのフォローもできたわけですし、自分が見落としていた箇所気づかされ、未熟な部分をあらためて自覚した思いです。

英語でのプレゼンテーションは初めてで大変でしたが、語学の壁がある分、優先順位をつけ要点を絞って説明するなど、流れをスムーズにできた気がします。日本語だと話が脱線したり、細部に行き過ぎてしまいがちなのですが…。表現に苦労したものの、非常に勉強になりました。



〈研修会スケジュールの一例〉

**Dr. Kaunitz 招聘、  
英語を用いての  
臨床研修会**

開催：平成 23 年 11 月 14 日(金)

会場：岩国医療センター内

管理棟 3 階大会議室

## ■症例検討

14 時 30 分～16 時 30 分

- ・若年発症の急性心筋梗塞の 1 例
  - ・出血性十二指腸脂肪腫の 1 例
  - ・毛髪胃石症の 1 例
  - ・閉鎖孔ヘルニアの 1 例
  - ・リンチ症候群の 1 例
- いずれも研修医による発表

## ■ミニレクチャー

16 時 30 分～17 時 20 分

- ・英語論文の書き方

講師：Jonathan D. Kaunitz, M.D., F.A.C.G

※研修会に先立ち、13 時 50 分頃から  
病棟回診を実施。



# Dr. Kaunitz NHO病院訪問ツアー2011レポート

by 担当 N



今年 8 月に実施した Dr. Kaunitz の全国縦断 NHO 病院訪問ツアーが、11 月にもおこなわれました。毎年、日本から NHO 病院所属の先生方約 8 名が退役軍人病院医療センター（VA）に留学されていますが、それ以外の先生方にも同様の経験をさせていただき、VA 留学の魅力をお伝えするために昨年から始まったプロジェクトです。訪問先は本部で選択させていただいていますが、基本的に初期あるいは後期研修医の方がいらっしゃる病院が対象なので、急性期病院が中心です。

訪日ツアーは年 2 回、今年 8 月には呉医療センター・岡山医療センター・名古屋医療センター・北海道医療センターの 4 病院、11 月には、岩国医療センター・京都医療センター・金沢医療センター・大阪医療センターの 4 病院を訪問していただきました。

数日間を日本で縦断する非常にタイトなスケジュールで、病院への到着はお昼前後になります。そして午後から、院内案内、研修医による症例のプレゼンテーション、病棟回診、さらに Dr. Kaunitz のミニレクチャーという流れが一般的です。もちろんすべて「in English」です！プレゼンの際には Dr. Kaunitz が最前列に座られ、途中でドキッとするような質問を投げかけたり、スライドの誤表記を鋭く指摘・指導されたりします。卒業 1～5 年目に英語で症例発表する機会など減多にないですから、研修医のみなさんにとって非常に貴重な体験だと思います。もちろん、準備も大変でしょうが…。

Dr. Kaunitz はかなりの親日家であり、来日回数も 25 回を優に超えるとか。正直、田舎者の私より日本のことをずっとずっとご存じです。お話の端々に「〇〇駅は乗り換えが複雑だ」「おおいこの駅はリニューアルしたんだね」「のぞみは早くて快適だ」「このホテルは駅直結の連絡通路はないのかい？」など、日本人を唸らせるようなフレーズが次々に飛び出します。さらには、日本食の好き嫌いもまったくない模様です。「そろそろアメリカの食事が恋しいのでは？」とツアーの途中にモスバーガーにお誘いしたこともありましたが、「いや、蕎麦がいい」とあっさり断られ…。蕎麦とイクラ丼のセットを美味しく召し上がりました。ちなみに、呉医療センターにお邪魔した際には、1 人で「お好み村」（広島市にあるお好み焼きのフードテーマパーク）に行かれたそうです。

11 月のツアーでは、岩国医療センターと大阪医療センターに同行しましたが、岩国駅では研修医全員による熱烈歓迎を受け、錦帯橋見物、岩国名物（？）シロヘビ見学、さらには、ライトアップされた錦帯橋まで体験。また、大阪医療センターでの World Cafe では、英語が堪能な若い先生方との積極的なトークで大いに盛り上がりました。さすがは大阪、どのテーブルからも笑い声が絶えませんでした。大阪と金沢医療センターでは、昨年 VA に留学された先生方との再会も果たされ、とてもハッピーな時間を過ごされたようです。

お邪魔した各病院の先生方ならびに関係者の皆さま、本当にありがとうございました。次はあなたの病院に Dr. Kaunitz の来訪があるかもしれません。今後のツアーにどうぞご期待ください。



## Dr. Kaunitz の全国縦断 NHO 病院訪問ツアー 2011 日程

### 8 月

平成 23 年 8 月 22 日（月） 呉医療センター  
平成 23 年 8 月 23 日（火） 岡山医療センター  
平成 23 年 8 月 24 日（水） 名古屋医療センター  
平成 23 年 8 月 25 日（木） 北海道医療センター

### 11 月

平成 23 年 11 月 14 日（月） 岩国医療センター  
平成 23 年 11 月 15 日（火） 京都医療センター  
平成 23 年 11 月 17 日（木） 金沢医療センター  
平成 23 年 11 月 18 日（金） 大阪医療センター



## 編集後記

「NHO NEW WAVE」の企画担当、熊本県天草出身の K です。このたび、編集後記を書けというお達しがまわってきました。この情報誌の準備をしていた頃は、取材・撮影はスタッフの仕事。自分で記事を書かないのは楽でいいなど考えていたのですが…。

ところで「NHO NEW WAVE」とは、文字通り“国立病院機構の新しい波”という意味ですが、研修医、専修医の皆さんにこそ、国立病院機構をより良い病院に変革する新しい波となって欲しいと願ってつけられたタイトルです。“良質な医師を育てる研修”、“専修医海外留学プログラム”、“VA 医師招聘プログラム”

には K も携わらせていただきました。まだまだ小さな波ではありますが、少しでも多くの方に知っていただき、BIG WAVE に育っていけば光栄です。

最近、その波を実感した出来事がありました。たまに K も出沒する“良質な医師を育てる研修”で「先輩に勧められて来ました」という方が意外に多かったこと。この研修は本部主催なので旅費も支給されますし、機構の他病院の人達とのつながりをつくる絶好の機会です。今後とも皆さんのご参加を心からお待ちしております。K に遭遇しても逃げないください。

せっかくの機会なので、K の出身地“天草”も PR しちゃいます。東京からだと羽田空港から福岡空港まで 1 時間 55 分、小型の飛行機に乗り換えて 35 分。この飛行機、ちょっとし

たジェットコースター感覚を味わえるプロペラ機です。あとは空港でレンタカーを借りれば OK!!

K のオススメは、週末の 1泊2日プラン。イルカウォッチングで約 200 頭のイルカの群れを楽しんだ後、山盛りのウニ丼を食べて、温泉を目指しながら海岸線に沈む美しい夕日を眺め、夜は新鮮なお魚、車海老を堪能するプランです。そうそう最近では、地鶏の“天草大王”もおすすです。K の正体が分かった方は、気軽にお問い合わせください。（K）

ゆるキャラグランプリ 2011  
1 位 くまモン登場  
【YouTube】  
ローカル CM



## Talk

# 人が集まるマグネット病院をめざして パートナーシップを大切にした運営を。

Dr.Kaunitz 招聘プログラム取材で訪れた  
京都医療センターの中村孝志院長にお話をうかがいました。

## 京都伏見で半世紀、地域医療を推進

京都医療センターは、30年前、私が医師になってまだ間もない頃に勤務していた病院です。診療科の数は当時から多かったのですが、整形外科で医師が約4名と、1つの科の医師や看護師の数が少なく、少数精鋭でやっていた時代でした。

今年、院長に就任しましたが、当時比べてマンパワーが非常に大きくなっています。施設もモダンで立派、病室のクオリティが向上しました。2011年1月に完成した新中央診療棟には、患者さんのアメニティを重視した全室個室の特別室病棟を開設しています。

2004年に独立行政法人化したことで、スタッフ全員が収支を意識する病院運営に変わりつつあることも感じています。ただ、民間の病院と違って、利益を追求する運営に傾きすぎてもいけません。国立病院機構の一員として政策医療を担いながら、京都医療センターのインセンティブやセールスポイントを打ち出していくことが必要だと考えています。

では、当院の強みとはなにか。1つは救命救急センターがあることです。人口約150万人の京都という都市で救命救急に対応する病院は3つしかありません。診療科が39もあり、スタッフの努力と研修医が参加する教育システムを採用していることで、あらゆる患者さんを受け入れる体制が整っています。

また、昔から内分泌系の疾患や糖尿病に強く、国の内分泌研究センターに指定され、WHOのセンターの1つにもなっています。にもかかわらず、最近では糖尿病関連のアクティビティが少し落ちてきているので、今後、強化していきたいですね。この地で半世紀以上、地域医療を推進してきた歴史をベースに、当院の得意分野をさらに伸ばしていくことに取り組んで行きたいと考えています。

## 検査から緩和ケアまで可能ながん治療

その1つが、がんの治療です。現在は2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなる時代と言われています。当院ではもともと外科や消化器科が強かったのですが、呼吸器科、泌尿器科、血液科など、がんを扱う領域が非常に拡大してきました。外科手術、放射線治療、化学療法がおこなわれ、専門医の充実を図りながら、がん治療に力を注いでいます。外来化学療法室を9床から18床に増やして、腫瘍内科専門の内科医による本格的な治療を進める体制も整えています。

それに加えて、新中央診療棟の中に末期のがん患者さんに対する20床の緩和ケア病棟を開設。緩和医療の充実を実現しています。あわせて、がん患者の生活を支援するNPO法人・キャンサーリボonzがサポートするサロン、「リボonzハウス」を病院内に設置。患者さん同士が交流し、副作用や日常生活で困ったことなどを情報交換できる場所をつくりました。これは全国で14番目、京都では初め

ての施設です。

検査、外科手術、放射線、化学療法、そして緩和ケアまで、がん患者さんを最初から最後までトータルに治療&サポートできる環境が整っている病院は全国でもそんなに多くはないでしょう。

もちろん、収支ということを考えれば、急性期の病院が緩和ケア施設を持つことに経済的なメリットがあるかどうかは微妙な問題です。実際、1ベッドの病院単価としては、急性期の治療よりも下がってくるわけですが、がん治療が一連の流れでできる。これは患者さんにとっても、病院にとっても重要です。がんの専門医や研修医にとって勉強になるという意味での大きなインセンティブにもなります。がん拠点病院としても意義のある取り組みではないでしょうか。

## コ・メディカルと連携したチーム医療を推進

現在、医師だけでなく、コ・メディカルの人たちも含めて、新しい治療法や機器にチャレンジしたいという機運が非常に高まっています。これまでのように医師主導でやっていくのではなく、看護師・薬剤師・理学療法士など、優秀なスタッフが積極的に参加して、チーム医療としていい形の医療を提供していきたいと思っています。

また、5年先・10年先の将来を見越して、地域医療の中で重要な役割を果たし続ける病院であるための研究センターをもち、人材を育成しながら、トップクラスの新しい医療をつくっていくという視点も大切です。伝統的に京都大学との関係が深いこ

とも当院の特色であり、積極的に交流を続けていますから、最先端の医療ができる体制が十分に整っています。実力のあるコ・メディカルが揃っていますから、研修医のみなさんにとっても、非常に勉強になる環境だと思います。

## 収益性を意識した病院経営をめざして

収益的な点では、たくさんの領域をカバーしながら、地域にとってどれぐらいのパーセンテージで患者さんを集める能力を持っているか、冷静に分析してみることも大切だと考えています。

たとえば、少子化で小児科の患者数が減っているとしても、獲得している比率が高ければ小児科を強化する価値があるだろうし、逆に患者数が多くても割合が低ければ、今後は伸びないという判断が成り立つわけです。強い分野を強化して弱い部分は現状維持とセグメンテーションしていくというのが戦略的には必要でしょう。収益を意識した近代的な医療経営には欠かせない視点です。

最近、「マグネット病院」という言葉が注目されています。磁石のように人を集める病院。つまり、患者さんも医師もコ・メディカルも、みんなが来たがるような存在であること。アピールしなくても、人が自然と集まって来るような病院にできれば理想的です。そういった点ではこれからもやらなければいけないことがたくさんあります。地域で信頼されるマグネット病院をめざして、たくさんの課題に取り組んでいきたいですね。

## 病院紹介

### DATA

独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター

■所在地

〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町1-1

TEL (075) 641-9161 (代)

FAX (075) 643-4325

http://www.hosp.go.jp/~kyotolan/

■沿革

1908年(明治41年)11月、京都衛戍病院として設立され、1945年(昭和20年)12月、国立京都病院として厚生省に移管。2011年(平成23年)1月、新中央診療棟、緩和ケア病棟設置

■概要

39の診療科を標榜する高度総合医療施設として、約半世紀にわたり、京都伏見の地で医療活動を推進。国から内分泌・代謝疾患の準ナショナルセンター、成育医療の基幹医療施設、がん・循環器・感覚器・腎疾患の専門医療施設に指定されており、診療所・病院との連携を強化しながら、地域医療の発展に貢献しています。



## Hospital 病院クローズアップ

## 国立病院機構

## 福岡東医療センター



## 院長PROFILE

上野 道雄 (うの・みちお)

1949年福岡県生まれ、74年九州大学医学部卒業。

92年国立福岡中央病院内科医長、2003年九州厚生局病院管理部医療課長を経て、2005年国立病院機構福岡東医療センター院長に就任。日本医師会代議員、福岡県病院協会専務理事、福岡県医師会理事、久山生活習慣病研究所理事、福岡女学院看護大学最高顧問などを務めている。

## 患者さんの思いに応えるには、患者の傍らに寄り添う看護職が医療職として専門性をもつことが大事

私が院長になる直前に、看護学校と附属リハビリテーション学院が閉鎖になりました。それで平成19年に福岡女学院看護大学を誘致しました。患者さんの思いに真摯に応えるためには、看護職が専門性を発揮し、医療に参画する必要があると思い、また看護で医療を変えたいという想いもありましたので。

次に考えたのが地域医療です。1年ぐらいかけて、ここの行政の長と、医師会長に何度も会って話し合い、地域医療を考える会を立ち上げました。地域医療について考えていたときに、医師会長のほうが在宅医療で困っていると言われました。例えば在宅医療を希望しながらも、脳卒中や心不全などの症状がある方は急変時には不安を抱えながらも入院医療に依存せざるを得ない。かかりつけ医は在宅医療に前向きな想いがありますが、急変時の時間外対応や入院治療の可能な病院の確保に不安がある。救急病院といえば患者さんの情報がない救急医療にリスクを感じています。そこでかかりつけ医に必要な情報を登録しておいてもらえば安心ではないかと考え、地域高齢者のための安心・安全の救急医療を目的とした粕屋北部在宅医療ネットワークを設立しました。5年間続けてきましたが、一番の財産は、医師会とかかりつけ医の先生方、そして訪問介護師や看護師さんとの間に信頼関係ができたことです。私は医者で、とくに院長となると訪問介護の皆さんや地域の看護師さん

と接する機会が少ないのです。でも意識して常に出ていろいろな話をする事で、次のテーマが出てきました。

今日は高齢化社会で、病院の中ですべてが終わる時代はもう過去のものになってきています。事後を在宅でかかりつけ医が診療したり、訪問看護師のお世話を受けて、二次病院に行ったりと、いろいろなことがあります。そのとき必要となる医師の情報はある程度まとまっているのですが、看護の情報はきちんと整理されていなかった。でも本当に必要なのは、看護情報が語り合える環境をつくることではないかなと感じました。看護の声を聞かないで、住民の方の声や患者さんの声を聞けるわけがないというのを痛感しましたので。それで今年の春から正式に粕屋かかりつけ医・病院・看護師連携協議会を作り、看護誌や医師の添え書き、報告書を一体化させるということを行っています。

最後に研修医の方にメッセージですが、ぜひすそ野を広くして欲しいと思います。すそ野が広い山は、決して高くない。高い頂きとすそ野と両方を目指して欲しいと思うのです。そしていろいろな先輩との触れ合いを大切にしたい。同じ先輩の下にずっといたら、その先輩を乗り越えることは困難だろうと思うんですね。多くの先輩と触れ合い、良いところを吸収していくことで、気がついたらあの研修のときにみたすばらしい先輩たちを乗り越えている…というのが理想ではと思います。

## 福岡東医療センター DATA

## ■所在地

福岡県古賀市千鳥1丁目1-1  
<http://www.fj-med.jp/top.html>

## ■病床数

579床

## ■診療科目

内科／神経内科／呼吸器科／消化器科／循環器科／小児科／外科／整形外科／脳神経外科／呼吸器外科／心臓血管外科／リハビリテーション科／放射線科／歯科／麻酔科

## ■研修の特色

地域医療支援病院、がん拠点病院、災害拠点病院として地域の中核的病院で、また呼吸器疾患の基盤病院で、北九州の結核診療の中心的施設です。循環器疾患、脳卒中、小児疾患などの多くの救急疾患に対し専門医5名による24時間救急診療体制をとっており、充実した研修を経験することが可能です。重症心身障害者医療も行なっているため、生命の尊さを実感できる研修もできます。



## 福岡東医療センターのある街

## 豊かな自然と祖先から受け継いだ巨木が残る昔ながらの街

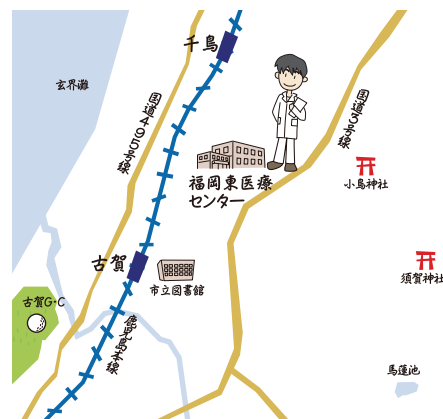


九州最大の都市、福岡市に隣接する古賀市は鹿児島本線、国道3号線、九州自動車古賀インターといった交通のアクセスの良さが魅力のひとつ。そんな古賀市の東側には緑豊かな山脈、西側には美しい海岸線の海が広がる自然に恵まれた街である。花鶴浜は玄海国定公園に指定された、玄界灘を一望できる白浜青松の美しい海岸で、沖合に沈んでいく夕日は絶景だとか。また博多の奥座敷、静かな山あいひっそりとたたずむ「薬王寺温泉」は県外のファンも多いそう。

不思議な形の巨木が出迎える「五所八幡宮」は市内随一の大社で、巨木のこぶは「ムーミン」にそっ

くりだとファンが見学に訪れる名所にもなっている。そのほかにも古賀の街には祖先から受け継いだ巨木が多く残り、古賀の街を見守り続けている。

市ではすばらしい景観を地域の誇りとするため、「都市景観賞」として優れた景観を選定し、表彰も行っている。これまで薬王寺水辺公園や古賀海岸、熊野神社など20カ所が受賞している。そんな景観や自然を楽しめる、バリエーションに富んだウォーキングコースもいくつも整備されている。古賀の四季折々の景色をのんびり歩いて堪能するのもおすすめだ。



## Hospital 病院クローズアップ

## 国立病院機構

## 小倉医療センター

「この街にはこの病院があるから住みたい」  
そう思われる病院を目指して

病院の特徴としては、小児救急医療と産婦人科医療で、いわゆる成人医療といいますが、その分野が地域のなかでも非常に充実しています。それが病院全体を牽引しているような形になっています。

小児救急は24時間365日、いつでも対応しています。産婦人科に関しましても、医師の数が確保できているので、開業医からの紹介の方は全部診るという方針でやっております。垣根のない病院といえますか、他の科に応援が必要な場合でも、声をかけたらすぐにきてもらえるというところがありますね。働きやすい病院だと医師の皆さん思ってもらえるようです。あまりコントロールしすぎず、それぞれが個性を伸ばすようにやっているの、いいのか、一度大学の人事で外に出てまた戻ってくる人も結構います。温かい雰囲気です。

小児の救急に関しては、一番救急の多い夜間は近辺の開業医の方たちに当院に来ていただき、診療していただくという仕組みをとっています。病院としても、スタッフがたくさんいてもやはり24時間365日というのはかなり大変ですから、手伝っていただくと随分楽になります。

もうひとつ、これは全国初の試みですが、周産期に特化したドクターカーを導入しています。例えば北九州市の消防のテリトリーを超えた場所で緊急のお産があり、それも未熟児かもしれないというとき、すぐに病院へ運びたくても、救急車が県境を超

えるのは困難なことが多々ありまして、それで病院にドクターカーを導入しました。行きは医師を乗せて、現場で赤ちゃんを受け取り、帰りは救急車で赤ちゃんと一緒に帰ってくる。未熟児医療は一刻を争いますので。

研修制度についてですが、各科の医師が教えることを非常に面白いと感じているようです。ただ、今の研修制度でひとつ問題なのが、2年終了したあとにどうするかということです。昔は医局制度があったので、研修が終わってもその後が保障されていましたが、今は将来的にポストがないというケースもありますので、私たちの基本的なスタンスとして、2年終わったら大学の医局に残すようにしてもらったほうが将来いいですよ、という話をして希望する大学の医局を紹介しています。

研修医の方に望むのは「知識」と「技術」と「態度」です。この3つの領域を、全部満たしていただくということが大前提です。けれども患者さんが一番求めるのは、最後の「態度」だと思うんですね。患者さんのために親身になって考えてあげられるような医師に育てていただきたいです。いくら知識や技術があっても、患者さんと話をしたときに取りつく島がないような対応をする人では困るわけです。患者さん中心の医療であるということは忘れずにやっていく。そして当院のように温かいところで教えられた経験を活かして、次は後輩に温かい指導をして欲しいと思います。



## 院長PROFILE

岡嶋 孝一郎（おかじま たいいちろう）  
1949年生まれ、73年九州大学医学部卒業。  
80年同大学院修了（医学博士）、81年九州大学第三内科助手、83年西ドイツフライブルグ大学留学、86年国立小倉病院内科医長、94年国立病院九州医療センター内科医長。  
2000年国立小倉病院副院長（在任中九州厚生局臨床研修審査官併任）を経て、2007年国立病院機構小倉病院（現小倉医療センター）院長に就任。  
日本内科学会指導医・認定医、日本内分泌学会代議員・指導医・専門医、日本糖尿病学会指導医・認定医、同九州地方学会学術評議員、日本肥満学会評議員、医療マネジメント学会評議員、その他、厚生労働省他の主催する臨床研修指導医養成講習会のタスクフォースとして各地で指導を行う。

## 小倉医療センター DATA

## ■ 所在地

福岡県北九州市小倉南区春ヶ丘10番1号  
<http://www.kokura-hp.jp/>

## ■ 病床数

400床

## ■ 診療科目

内科／診療内科／精神科／神経科／呼吸器科／消化器科／循環器科／小児科／外科／整形外科／小児外科／皮膚科／泌尿器科／産科／婦人科／眼科／耳鼻咽喉科／放射線科／麻酔科

## ■ 研修の特色

臨床研修に必要な診療科をすべて院内に有する、バランスのとれた総合病院です。内科系、外科系合わせて約18の学会研修認定施設なので、専門医取得にも有利な病院です。将来どの科を専門にしても役に立つ、特定の診療科に偏らない幅広い研修を目的としています。基本的には研修医を労働力として期待しておらず、それより勉強をしてもらうという立場で来ていただいています。



## 小倉医療センターのある街

## 九州の玄関、小倉。九州で2番目の都会ながら田舎の風情も残す街

九州の中心地である福岡から新幹線で18分ながら、すべての新幹線停車駅ということからもわかるように、昔から北九州は九州の玄関でもあった。ここから鉄道が枝分かれしており、九州のどこへでも行けるというアクセスの良さがある。

博多に比べるとまだローカルな風情が残る、いわば都会のような田舎のような、バラエティに富んだ街である。たとえば国際貿易港として栄えた都市型観光地「門司港レトロ」などがそうで、昔ながらの建物と新しい建物をミックスした粋でモダンな街並みが形成されている。

食べ物に関しては、面積約1,400ヘクタールにも

わたる竹林では関西市場で最も単科の高い極上品として取引される「合馬たけのこ」が生産されている。また関門の海に育ったわかめ、郷土が誇る黒毛和牛「小倉牛」や門司港レトロでは門司港発祥のご当地メニュー、焼きカレーが楽しめる。

平成23年2月23日には神奈川県川崎市において「全国工場夜景サミット」が開催されたが、ここ北九州市も室蘭市、川崎市、四日市市の4市で「日本四大工場夜景」とする共同宣言を行い、今後はこの4市が連携して夜景観光の推進・普及に努めていくことになった。地域の活性化と新しい観光地としての期待も高まっている。



## 海外留学制度を活用して 最新医療の現場を体験

世界の最先端医療を  
垣間見ることができた  
貴重な7週間

宇都宮病院  
総合診療科

伊藤 知和

2011年7月9日より8月31日まで、アメリカ・カリフォルニア州のロサンゼルスにある退役軍人病院医療センター(VA)に研修留学に行く機会をいただきました。

私は一般外科医・呼吸器外科医ですが、褥瘡対策・NST委員会の運営に関与しており、化学療法委員会や緩和チームの立ち上げも予定していたため、胸部外科、化学療法科(血液内科)、緩和チーム、栄養チーム、創傷チームの5箇所をローテーションしてきました。

胸部外科では自分の専門である呼吸器外科のアテンディングはDr.Cameronお1人でした。とても背が高く、おしゃれでダンディでユーモアのある先生で、UCLAのAssistant Professorの肩書もあり、VAでの活動日は主に水曜日のみ。朝の合同カンファランス、手術、クリニックと忙しい1日となります。彼の活動日が週1日に限られていたので、7週間の研修期間中の毎週水曜日は彼に合流させてもらいました。

合同カンファランスは、呼吸器内科のレジデントのミニレクチャーと相談症例の提示が中心。タバコと喫煙の関係、人種と発癌の関係など、多民族国家アメリカならではの討論が興味深かったです。

手術は、肺癌で肺動脈浸潤があり、全摘術になった症例や、確定診断や病期診断のための縦隔鏡などを見学。クリニックでは、他のスタッフが対応した患者を、短くとも必ず自ら診察をしてICする姿に接し、本当に尊敬に値する指導者でした。

また、彼の手術や内視鏡治療の見学のため、3日間UCLA病院にも行きました。daVinciのロボット手術による拡大胸腺摘出術も見学



でき、アメリカでの最先端医療にも接することができました。

その後2週間の化学療法・血液内科では、仲良くなったフェローとサンタモニカのUCLAクリニックに同行。肺癌の化学療法の専門家Dr.Garonの診察にも付きました。

緩和チームでは、お世話になったアテンディングのDr.Lorenzに、飲み連れて行ってもらい、家族とともに自宅にも招待していただき、楽しい時間を過ごしました。

最終週は栄養チームと創傷ケアチームで、医師ではなく、管理栄養士やWOC看護師の院内での活躍に触れました。

研修を終えて感じるのは、日本とアメリカの違いはやはり教育システムだと思います。アメリカでは一人前の医師になるまでの道のりが長いのですが、それぞれの過程ごとに教える・教わるの関係があり、それがお互いを育てるという印象でした。

一方、自由時間もたくさんあり、ちょうど日本の夏休みの時期に当たったため、妻と3歳の長男も同行。週末は家族でいろいろ観光ができました。近くはGetty美術館やサンタモニカビーチ、ビバリーヒルズやハリウッド。車があればディズニーリゾートにもすぐ行けます。足を延ばしてサンディエゴのレゴランドも行きました。

あっという間の2ヶ月でしたが、世界最先端の医療を垣間見たこと、異国の医療に触れたこと、すべてがとても良い経験でした。この機会を与えてくださった人材育成キャリア室の本部の皆様をはじめ、機構本部の方々、2ヶ月もの留守を許してくれた宇都宮病院の皆様にご感謝いたします。

緩和ケアから教育体制、  
呼吸器内科や集中治療まで  
幅広く体験

松江医療センター  
呼吸器科医長・医療教育研修室長

門脇 徹

2011年7-8月の2か月間、今年度のVA派遣第1陣としてロサンゼルスに行っていました。

私は呼吸器内科医ですので、下記の4診療科(チーム)でのローテーションを組んでいた。医療教育研修室長という立場でもあることから、教育部門も体験してきました。

研修期間中は

- ①Palliative care team
- ②Physical Medicine / Rehabilitation
- ③Hospitalist / Education
- ④Pulmonary / Critical Care Medicine

の順にローテーションしました。

まず①の緩和ケアチームでの研修では、チームの先生やスタッフの患者さんに対する真摯な姿勢、痛みをいかにとるかということにける真剣さ、痛みだけでなく精神的ケアなど、患者さんを“包み込むような”チーム医療が非常に印象に残りました。

そしてさらに印象的だったのはchiefであるDr.Rosenfeldの言葉です。

“我々の仕事は、終末期を迎えた患者さんとその家族に迎える『最期の絵』を描くことなんだ”と…。

次のローテーションは②Physical Medicine / Rehabilitation。アメリカでの呼吸リハをみたかったのですが、私がローテーション中には症例がなく、残念でした。

しかし、回診では、様々な職種のスタッフが患者さんに関わる“チーム医療”を実感でき、非常に印象的でした。

そして③の院内教育部門。それぞれの診療科やチームできちんとした教育がなされているのですが、この部門はHospitalistを養成する



部門であり、attending (常勤医で専門医の資格を持つ)の先生がfellowやresidentや学生をまとめてチームを作り、教育をしていました。

また、UCLAの Hospitalist / Educationの先生を紹介していただき、大学での医学教育も垣間見ることができました。教育に対する真摯な姿勢と情熱に触れたのは大きな収穫であり、知識・技術の習得におけるハングリーな姿勢は見習わなければいけないと痛感いたしました。

最後が④の呼吸器内科です。日本ではICU(集中治療室)といえば、麻酔科や救急のDrが管理するのが普通ですが、アメリカでは違うようで、呼吸器内科と集中治療はセットです。EBMに基づいた診療をしっかりと行っていて自分自身もっとも勉強をしないといけないと感じた次第です。

VAでローテーションした2か月はあっという間に過ぎていきました。短い間でしたが、少しずつネットワークも広がり、ロサンゼルスも満喫しながらの研修は、本当にいい思い出になりました!

最後に、現地でコーディネートをいただいた秋葉先生、Dr.Kaunitz、国立病院機構本部の担当の方々、そして当院の先生方・職員の皆様に感謝いたします。この経験が今後の診療・教育・研究のレベルアップにつながるよう、日々精進を続けていきたいと思ひます。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

## 留学環境紹介 ④ ある専修医の1日

VA留学に派遣された場合、どんな毎日を過ごすのでしょうか。滞在中の基本的な生活環境をお知らせします。

(九州医療センター循環器科 井上寛子先生)

## 平日

6:30

起床、朝食を摂った後に徒歩にて VA hospitalへ

8:00

心臓カテーテル検査室にて検査の見学

11:00

院内コンサルトにてER、CCUを回診もしくは外来患者の生理学的検査を見学(ストレス心エコーや運動負荷試験など)

12:00-13:00

Jounal club (昼食)

13:30-15:00

外来見学、院内コンサルト及び入院患者の回診

16:30-18:00

CT conference  
※内科及び外科にて手術適応の有無について検討会

19:00

帰宅、同行の先生と夕食(自炊)

23:00

就寝



## 休日

7:30

起床

8:30

朝食

9:30

Santa monica beach までドライブ

10:30

Santa Monica Place にてショッピング

12:00

昼食

13:30

3rd street Promnade にてショッピング

16:00

Grocery store に買い出し

18:00

夕食(自炊もしくは外食)

23:00

就寝



キッチン



リビング



バスルーム



ベッドルーム